

対象校No.
注4

学校コード F133310109554
注3

設置年度 令和 6年度

計画の区分： 研究科の設置
注1

認可

注2
岡山理科大学大学院 獣医学研究科 獣医学専攻 博士課程

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書 (改正後大学設置基準適用)

学校法人加計学園
令和7年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名	企画部
職名・氏名	フチャウ ノムラ タケミ 部長・野村 武未
電話番号	086-256-8414
(夜間)	086-256-8431
e-mail	kikaku@ous.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・大学の設置の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。
なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。
https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html
- 4 対象校No.については、「【別紙】令和7年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、
該当番号を記載してください。

目次

獣医学研究科

＜獣医学専攻 博士課程＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	14
5. 教育研究実施組織の状況	16
6. 附帯事項等に対する履行状況等	23
7. その他全般的事項	26

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人加計学園

(2) 大 学 名

岡山理科大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

〒794-8555 (700-0005)

愛媛県今治市いこいの丘1番3 (岡山県岡山市北区理大町1番1号)

(注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。

・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(カケ コウタロウ) 加計 晃太郎 (平成13年1月)	(カケ マモル) 加計 役 (令和6年6月)	理事の任期満了のため 理事長を選任 令和6年6月1日(7)
学 長	(ヒラノ ヒロユキ) 平野 博之 (令和4年4月)		
研究科長	(エトウ マスミ) 江藤 真澄 (令和6年4月)		
専攻長	(エトウ マスミ) 江藤 真澄 (令和6年4月)		

(注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を

()書きで記入してください。

(例) 令和6年度に報告する内容 → (6)

令和7年度に報告する内容 → (7)

・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載 (昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正) するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。

・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注)・当該調査対象の学部または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
 - ・様式は、令和2年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和7年度までの6年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
 - ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）」により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生を記載してください。
 - ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の 名称（学位）	学位又は学科の 分野	設 置 時 の 計 画				学生募集の停止 について	備 考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
獣医学研究科 獣医学専攻 博士課程 博士（獣医学）	獣医学関係	4 年	3 人	2年次 0 人 3年次 0 人 4年次 0 人	12 人	—	

- (注)・定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 - ・「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）又は（その2の2））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 - ・学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和○年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「—」を選択。）

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		春季入学以外の 学期区分につい て	収容定員 充 足 率	収容定員 充 足 率 (控除後)	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 3 () []	人 () []	人 3 () []	人 () []	—			
志願者数	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 3 () []	人 () []	人 5 () []	人 () []	春季入学以外 の入学時期と 入学定員内訳	1.00倍	一倍	
受験者数	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 3 () []	人 () []	人 5 () []	人 () []				
合格者数	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 3 () []	人 () []	人 5 () []	人 () []				
B 入学者数	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 2 () []	人 () []	人 5 () []	人 () []				
入学定員超過率 B/A	—		—		—		—		0.66		1.66					

- (注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「—」を記入してください。
 - ・（ ）内には、編入学の状況について**外数**で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・転入学生は記入しないでください。
 - ・[]内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。
 - ・「入学定員超過率」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出**してください。
なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - ・報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択するとともに、下欄に、入学時期と入学定員の内訳（予定を含む）を記載してください。（春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「—」を選択。）
 - ・「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和8年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 - ・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「—」としてください。
 - ・「(5) - ② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	1 [—] (—)	— [—] (—)	5 [—] (—)	— [—] (—)	
2 年次			— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	1 [—] (—)	— [—] (—)	
3 年次					— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
4 年次							— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
計	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	1 [—] (—)	— [—] (—)	6 [—] (—)	— [—] (—)	

(注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ []内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期 (春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。
- ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内 訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
令和2年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
令和5年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
令和6年度	1 人	1 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	1 人	0 人	就職(1人)
令和7年度	6 人	0 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	0 人	0 人	
			令和7年度	0 人	0 人	
合 計		1 人		1 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生、転科生も含めて記入してください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「修学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。

(記入項目例)・修学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\text{\#VALUE!}} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\text{\#VALUE!}} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\text{\#VALUE!}} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\text{\#VALUE!}} = \boxed{-} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(a+b)}} = \frac{1}{2} = \boxed{50} \%$$

【令和7年度】

$$\frac{\text{令和7年度の退学者数(a)}}{\text{令和7年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{6} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<獣医学研究科 獣医学専攻 博士課程>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			基幹教員等の配置					(助 手 を 除 く) 外 の 教 員
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	フロンティア獣医学総合 講義Ⅰ	1通	2			8					
	フロンティア獣医学総合 講義Ⅱ	2通	2			8					
	フロンティア獣医学総合 講義Ⅲ	3通		2		8					
	フロンティア獣医学総合 講義Ⅳ	4通		2		8					
	小計(4科目)	-	4	4	0	8	0	0	0	0	0
演 習 科 目	獣医インターナショナル キャリア	1・2・ 3・4通		1		8					
	獣医学術プレゼンテー ション	1・2・ 3・4通		1		8					
	獣医いきものQOLラボ特 別演習	1・2・ 3・4通		2		2					1
	小計(3科目)	-	0	4	0	8	0	0	0	0	1
特 別 研 究	特別研究Ⅰ	1～ 2通	10			8					
	特別研究Ⅱ	3～ 4通	10			8					
	ゼミナール	1～ 4通	4			8					
	小計(3科目)	-	24	0	0	8	0	0	0	0	0
合計(10科目)			-	28	8	0	8	0	0	0	1
卒業要件及び履修方法											
必修科目の「特別研究Ⅰ～Ⅱ」20単位、「ゼミナール」4単位、「フロンティア獣医学総合 講義Ⅰ～Ⅱ」4単位を合わせた28単位と、専門科目または演習科目の選択科目から4単 位を合わせた計32単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上で、博士論文審査お よび最終試験に合格すること。											

【令和7年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			基幹教員等の配置					(助 手 を 除 く) 外 の 教 員
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	フロンティア獣医学総合 講義Ⅰ	1通	2			8					
	フロンティア獣医学総合 講義Ⅱ	2通	2			8					
	フロンティア獣医学総合 講義Ⅲ	3通		2		8					
	フロンティア獣医学総合 講義Ⅳ	4通		2		8					
	小計(4科目)	-	4	4	0	8	0	0	0	0	0
演 習 科 目	獣医インターナショナル キャリア(未開講)	1・2・ 3・4通		1		8					
	獣医学術プレゼンテー ション(未開講)	1・2・ 3・4通		1		8					
	獣医いきものQOLラボ特 別演習(未開講)	1・2・ 3・4通		2		2					1
	小計(3科目)	-	0	4	0	8	0	0	0	0	1
特 別 研 究	特別研究Ⅰ	1～ 2通	10			8					
	特別研究Ⅱ	3～ 4通	10			8					
	ゼミナール	1～ 4通	4			8					
	小計(3科目)	-	24	0	0	8	0	0	0	0	0
合計(10科目)			-	28	8	0	8	0	0	0	1
卒業要件及び履修方法											
必修科目の「特別研究Ⅰ～Ⅱ」20単位、「ゼミナール」4単位、「フロンティア獣医学総合 講義Ⅰ～Ⅱ」4単位を合わせた28単位と、専門科目または演習科目の選択科目から4単 位を合わせた計32単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上で、博士論文審査お よび最終試験に合格すること。											

【令和6年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	フロンティア獣医学総合講義Ⅰ	1通	2			8					
	フロンティア獣医学総合講義Ⅱ	2通	2			8					
	フロンティア獣医学総合講義Ⅲ	3通		2		8					
	フロンティア獣医学総合講義Ⅳ	4通		2		8					
	小計(4科目)	－	4	4	0	8	0	0	0	0	0
演習科目	獣医インターナショナルキャリア(未開講)	1・2・3・4通		1		8					
	獣医学術プレゼンテーション(未開講)	1・2・3・4通		1		8					
	獣医いきものQOLラボ特別演習(未開講)	1・2・3・4通		2		2					1
	小計(3科目)	－	0	4	0	8	0	0	0	0	1
特別研究	特別研究Ⅰ	1～2通	10			8					
	特別研究Ⅱ	3～4通	10			8					
	ゼミナール	1～4通	4			8					
	小計(3科目)	－	24	0	0	8	0	0	0	0	0
合計(10科目)			－	28	8	0	8	0	0	0	1
卒業要件及び履修方法											
必修科目の「特別研究Ⅰ～Ⅱ」20単位、「ゼミナール」4単位、「フロンティア獣医学総合講義Ⅰ～Ⅱ」4単位を合わせた28単位と、専門科目または演習科目の選択科目から4単位を合わせた計32単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上で、博士論文審査および最終試験に合格すること。											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、改正後大学設置基準等(令和4年10月1日施行)の適用以前については、改正前様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「専任教員等の配置」欄は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等の配置」としてください。
 - ・ 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」としてください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の授業科目全て(基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)以外の教員(助手を除く)(改正後大学設置基準等の適用以前は兼任、兼任教員)が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準等(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、「認可時又は届出時」の「主要授業科目」欄は削除し、「基幹教員等の配置」欄は「専任教員等の配置」、「基幹教員以外の教員(助手を除く)」欄は「兼任・兼任」としてください。その上で、各年度については、「基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)」数は、認可時又は届出時の「専任教員」数との比較において変更となっている箇所、「基幹教員以外の教員(助手を除く)(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員以外の教員(助手を除く)」)」数は、認可時又は届出時の「兼任・兼任」数との比較において変更となっている箇所を**太字の赤字**としてください。
(専任教員から基幹教員に変更したことをもって太字の赤字とする必要はありません。)
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務実習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。
その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。
新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。
(例: 記載順)【認可時又は届出時】→【令和7年度】(新)→【令和6年度】(新)→【令和5年度】→【令和4年度】→【令和7年度】(旧)→【令和6年度】(旧)

(1) -②授業科目表に関する変更内容

【令和6年度】

特になし。

【令和7年度】

特になし。

- (注)・ 2 (1) -① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、基幹教員等の配置の変更、主要授業科目の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。
- 変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。また、改正後大学設置基準（令和4年10月1日施行）の適用により、専任教員から基幹教員に変更した場合（例：「専任教員 教授1」から「基幹教員 教授1」に変更）や、兼任・兼任教員から基幹教員以外の教員に変更した場合（例：「兼任教員1」から「基幹教員以外の教員1」に変更）については、記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和6年度開設であれば令和5年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
5 科目	5 科目	0 科目	10 科目	5 科目	5 科目	0 科目	10 科目	
[0]	[0]	[0]	[0]					

- (注)・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1 科目減の場合：△ 1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

(注)・配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
- ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
- ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

(注)・設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
- ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注)・授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{0}{10} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第 3 位を切り捨て、小数点以下第 2 位まで表示されます。

- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	借用期間及び面積 1年 60㎡ 3年 224㎡ 30年 14,731㎡ 60年 15,974㎡ 研修所の取得および売却による増加 (6)			
	校 舎 敷 地	308,543㎡	0㎡	0㎡	308,543㎡				
	そ の 他	649,229㎡ 648,934㎡	0㎡	0㎡	649,229㎡ 648,934㎡				
	合 計	957,772㎡ 957,477㎡	0㎡	0㎡	957,772㎡ 957,477㎡				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体			
		127,226㎡ (127,226㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	127,226㎡ (127,226㎡)				
(3) 講義室等・新設研究科等の 専任教員研究室		講義室	実験・実習室	演習室	新設研究科等の 専任教員研究室	大学全体 用途変更による増加 (6)			
		82室	423室	153室 152室	23室				
(4) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		機械・器具 点	標 本 点	機械・器具の点数について、教育研究の充実のため教育研究の実施に伴う消耗品を購入したため。(7) 図書の点数については、教育研究の充実のため購入したためおよび電子図書の加算により増加。学術雑誌の種数については、パッケージ契約追加により増加。(7)	
		冊	電子図書 〔うち外国書〕	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕				
	獣医学研究科	23,382 [3,682] ~~19,842 [2,924]~~ (23,382 [3,682]) ~~-(19,842 [2,924])~~	2,843 [444] (2,843 [444])	419 [403] ~~-55 [-15]~~ (419 [403]) ~~-(55 [-15])~~	(403 [403]) ~~-(12 [-12])~~ (403 [403]) ~~-(12 [-12])~~	35,595 35,553 (35,595) ~~-(35,553)~~	210 (210)		
	計	23,382 [3,682] ~~19,842 [2,924]~~ (23,382 [3,682]) ~~-(19,842 [2,924])~~	2,843 [444] (2,843 [444])	419 [403] ~~-55 [-15]~~ (419 [403]) ~~-(55 [-15])~~	(403 [403]) ~~-(12 [-12])~~ (403 [403]) ~~-(12 [-12])~~	35,595 35,553 (35,595) ~~-(35,553)~~	210 (210)		
(5) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	研究費・共同研究費等・図書購入費・設備購入費は研究科単位での算出不能なため、学部との合計。
		教員 1 人 当 り 研究費等	600千円	600千円	図書購入費	0千円	0千円	0千円	
	共 同 研 究 費 等	1,000千円	1,000千円	設備購入費	1,072千円	0千円	0千円		
	学生 1 人 当 り 納付金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次		
		720千円	620千円	一千円	一千円	一千円	一千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、手数料						

(注)・設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の2)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・「(4)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(6)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・校舎等建物の計画の変更(校舎の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・国立大学については「(5)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学 の 名 称	岡 山 理 科 大 学									収容定員充足率 0.7倍以下の 学科数	10	収容定員充足率 1.15倍以上 の学科数	1
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	定員変更 年度 (AC期間 の学科の み)	開設 年度	所在地	備 考		
理学部	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度	岡山県岡山市北区 理大町1番1号			
応用数学科	4	365	-	1460	-	0.67	-	-	昭和39	同上			
基礎理学科	4	110	-	440	学士 (理学)	0.71	-	-	昭和39	同上			
物理学科	4	90	-	360	学士 (理学)	0.64	-	-	昭和50	同上			
応用物理学科	4	45	-	180	学士 (理学)	0.63	-	-	昭和41	同上			
臨床工学専攻	4	-	-	-	学士 (理学)	-	-	-	平成14	同上	令和4年度入学生より学生募集停止		
化学科	4	75	-	300	学士 (理学)	0.50	-	-	昭和39	同上			
生物化学科	4	-	-	-	学士 (理学)	-	-	-	昭和63	同上	令和4年度入学生より学生募集停止		
動物学科	4	45	-	180	学士 (理学)	0.98	-	-	平成20	同上			
臨床生命科学科	4	-	-	-	学士 (理学)	-	-	-	平成16	同上	令和7年度入学生より学生募集停止		
工学部	4	370	3年次 5	1490	-	0.80	-	-	昭和61	同上			
機械システム工学科	4	90	-	360	学士 (工学)	0.70	-	-	昭和61	同上			
電気電子システム学科	4	70	-	280	学士 (工学)	0.67	-	-	昭和61	同上			
情報工学科	4	75	-	300	学士 (工学)	1.08	-	-	平成4	同上			
応用化学科	4	60	-	240	学士 (工学)	0.50	-	-	昭和61	同上			
知能機械工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	-	-	平成17	同上	令和4年度入学生より学生募集停止		
建築学科	4	75	3年次 5	310	学士 (工学)	1.00	-	-	平成23	同上			
生命医療工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	-	-	平成19	同上	令和7年度入学生より学生募集停止		
情報理工学部	4	210	-	840	-	0.84	-	-	令和4	同上			
情報理工学科	4	210	-	840	学士 (情報理工学)	0.84	-	-	令和4	同上			
総合情報学部	4	-	-	-	-	-	-	-	平成9	同上			
情報科学科	4	-	-	-	学士 (総合情報学)	-	-	-	平成9	同上	令和4年度入学生より学生募集停止		
社会情報学科	4	-	-	-	学士 (総合情報学)	-	-	-	平成9	同上	平成29年度入学生より学生募集停止		
生命科学部	4	235	-	730	-	0.71	-	-	令和4	同上			
生物科学科	4	165	-	660	学士 (生命科学)	0.72	-	-	令和4	同上			
医療技術学科	4	70	-	70	学士 (生命科学)	0.65	-	-	令和7	同上			
生物地球学部	4	165	-	585	-	1.03	-	-	平成24	同上			
生物地球学科	4	120	-	540	学士 (理学)	1.01	-	-	平成24	同上	令和7年度から入学定員変更(140→120)		
恐竜学科	4	45	-	45	学士 (理学)	1.17	-	-	令和7	同上			
教育学部	4	110	-	500	-	0.55	-	-	平成28	同上			
初等教育学科	4	60	-	270	学士 (教育学)	0.48	-	-	平成28	同上	令和7年度から入学定員変更(70→60)		
中等教育学科	4	50	-	230	学士 (教育学)	0.63	-	-	平成28	同上	令和7年度から入学定員変更(60→55)		
経営学部	4	160	-	640	-	0.00	-	-	平成29	同上			

大 学 の 名 称											岡 山 理 科 大 学											収容定員充足率0.7倍以下の学科数	10	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	1
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備 考														
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度																
経営学科	4	160	－	640	学士 (経営学)	0.00	－	－	平成29	同上															
獣医学部（6年制）	6	140	－	840	－	0.00	－	－	平成30	愛媛県今治市いこいの丘1番3															
獣医学部（4年制）	4	60	－	240	－	0.00	－	－	平成30	同上															
獣医学科	6	140	－	840	学士 (獣医学)	0.00	－	－	平成30	同上															
獣医保健看護学科	4	60	－	240	学士 (獣医保健看護学)	0.00	－	－	平成30	同上															
大学全体（通学制）	4	1815	3年次10	7325	－	－	－	－	－	－															
通信教育部										－															
情報理工学部	4	200	2年次10 3年次20	200	－	0.00	－	－	令和7	岡山県岡山市北区理大町1番1号															
情報理工学科	4	200	2年次10 3年次20	200	学士 (情報理工学)	0.00	－	－	令和7	同上															
大学全体（通信制）	4	200	2年次10 3年次20	200	－	－	－	－																	

(注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）

なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。

・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「入学定員超過率」及び「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「—」とした上で、「非表示」設定としてください。

・学部・学科等、「入学定員を定めている組織」として全ての組織を記入してください。

※「入学定員を定めている組織」としては、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。

・本年度A Cの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。

・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和8年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。

・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「—」としてください。

・「収容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。

また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。

・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

・「所在地」及び「備考」については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。

詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

5 教育研究実施組織の状況

<獣医学研究科 獣医学専攻 博士課程>

(1) ー① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	江藤 真澄 ＜令和6年4月＞ 博士(理学)
		フロンティア獣医学総合講義Ⅰ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅱ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅲ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅳ※ 獣医インターナショナルキャリア 獣医学術プレゼンテーション 獣医いきものQOLラボ特別演習※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ ゼミナール
専	教授	神田 鉄平 ＜令和6年4月＞ 博士(獣医学)
		フロンティア獣医学総合講義Ⅰ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅱ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅲ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅳ※ 獣医インターナショナルキャリア 獣医学術プレゼンテーション 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ ゼミナール
専	教授	斉藤（齊藤）真也 ＜令和6年4月＞ 博士(獣医学)
		フロンティア獣医学総合講義Ⅰ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅱ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅲ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅳ※ 獣医インターナショナルキャリア 獣医学術プレゼンテーション 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ ゼミナール

【令和6年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	江藤 真澄 ＜令和6年4月＞ 博士(理学)
		フロンティア獣医学総合講義Ⅰ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅱ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅲ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅳ※ 獣医インターナショナルキャリア 獣医学術プレゼンテーション 獣医いきものQOLラボ特別演習※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ ゼミナール
専	教授	神田 鉄平 ＜令和6年4月＞ 博士(獣医学)
		フロンティア獣医学総合講義Ⅰ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅱ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅲ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅳ※ 獣医インターナショナルキャリア 獣医学術プレゼンテーション 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ ゼミナール
専	教授	斉藤（齊藤）真也 ＜令和6年4月＞ 博士(獣医学)
		フロンティア獣医学総合講義Ⅰ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅱ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅲ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅳ※ 獣医インターナショナルキャリア 獣医学術プレゼンテーション 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ ゼミナール

【令和7年度】

教員 区分	職名	氏 名 ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	江藤 真澄 ＜令和6年4月＞ 博士(理学)
		フロンティア獣医学総合講義Ⅰ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅱ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅲ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅳ※ 獣医インターナショナルキャリア 獣医学術プレゼンテーション 獣医いきものQOLラボ特別演習※ 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ ゼミナール
専	教授	神田 鉄平 ＜令和6年4月＞ 博士(獣医学)
		フロンティア獣医学総合講義Ⅰ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅱ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅲ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅳ※ 獣医インターナショナルキャリア 獣医学術プレゼンテーション 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ ゼミナール
専	教授	斉藤（齊藤）真也 ＜令和6年4月＞ 博士(獣医学)
		フロンティア獣医学総合講義Ⅰ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅱ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅲ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅳ※ 獣医インターナショナルキャリア 獣医学術プレゼンテーション 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ ゼミナール

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	横山 博 ＜令和6年4月＞ 博士（農学）
		フロンティア獣医学総合講義Ⅰ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅱ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅲ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅳ※ 獣医インターナショナルキャリア 獣医学術プレゼンテーション 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ ゼミナール
兼任	教授	赤木 徹也 ＜令和6年4月＞ 博士（工学）
		獣医いきものQOLラボ特別演習※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	横山 博 ＜令和6年4月＞ 博士（農学）
		フロンティア獣医学総合講義Ⅰ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅱ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅲ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅳ※ 獣医インターナショナルキャリア 獣医学術プレゼンテーション 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ ゼミナール
兼任	教授	赤木 徹也 ＜令和6年4月＞ 博士（工学）
		獣医いきものQOLラボ特別演習※

教員 区分	職名	氏 名 ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	横山 博 ＜令和6年4月＞ 博士（農学）
		フロンティア獣医学総合講義Ⅰ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅱ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅲ※ フロンティア獣医学総合講義Ⅳ※ 獣医インターナショナルキャリア 獣医学術プレゼンテーション 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ ゼミナール
兼任	教授	赤木 徹也 ＜令和6年4月＞ 博士（工学）
		獣医いきものQOLラボ特別演習※

(注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・認可申請書又は設置届出書の様式第3号（その2の1）（その2の2）（その2の3）に準じて作成してください。
なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準等（令和4年10月1日施行前）に基づき、対象学部等を設置している場合、改正後大学設置基準等（令和4年10月1日施行）の適用以前については、改正前様式第3号（その2の1）に準じて作成してください。
- ・各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
- ・「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て（基幹教員（大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」）以外の教員（助手を除く）（改正後大学設置基準等の適用以前は兼任、兼任教員）を含む。）を黒字で記入してください。
その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字**としてください。
- ・年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
- ・記載は、設置認可時又は届出時における「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」に記載されている「教員区分」（改正後大学設置基準等の適用以前は「専任等区分」）の順に記入してください。
- ・改正後大学設置基準等（令和4年10月1日施行）の適用以降については、主要授業科目にあたる「担当授業科目名」に下線を引いてください。（大学院、高等専門学校は除く）
- ・教員がサバティカル等で不在の期間がある場合、その期間（年月日）を上段「学位」の下へ記入してください。
- ・不要な年度（令和6年度開設であれば令和5年度以前）の表は適宜削除してください。
- ・指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目名を記入してください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和6年度】

特になし。

【令和7年度】

特になし。

(注)・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。

- ・ **認可で設置された学部等の基幹（専任）教員を変更する場合は**、当該基幹（専任）教員が授業を開始する前に必ず「基幹（専任）教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（A C教員審査）を受けてください。

原則としてA C教員審査を受けずに基幹（専任）教員として授業等を担当することは出来ません。

- なお、改正前大学設置基準等に基づいて認可を受けて設置された学部等が、改正後大学設置基準等への適用のため、大学が基幹教員の要件を満たすと判断した「専任教員」を「基幹教員」とする場合は、A C教員審査を受審する必要はない扱いとしています。（改正後大学設置基準等の適用にあたり、「基幹教員」の担当授業科目を追加する場合、「基幹教員」の担当授業科目の内容を変更するなど、A C教員審査の受審を求めている事由が発生する場合は、A C教員審査を受審する必要があります。）
- ・ A C教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和6年度開設であれば令和5年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時における 設置基準上の必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
4	3	4
名	名	名

(注)・大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設 置 時 の 計 画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計（A）	助手（A'）	教 授	准教授	講 師	助 教	計（B）	助手（B'）
8	0	0	0	8	0	8	0	0	0	8	0
(8)	(0)	(0)	(0)	(8)	(0)						
研究指導教員数 うち教授数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/	研究指導教員数 うち教授数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/				
8	8	0		0	8	8		0	0		
(8)	(8)	(0)		(0)	(8)	(8)		(0)	(0)		
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計（C）	助手（C'）	教 授	准教授	講 師	助 教	計（D）	助手（D'）
8	0	0	0	8	0	8	0	0	0	8	0
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
研究指導教員数 うち教授数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/	研究指導教員数 うち教授数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/				
8	8	0		0	8	8		0	0		
[0]	[0]	[0]		[0]	[0]	[0]		[0]	[0]		

(注)・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。

・「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。

・「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、

[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

・「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、

[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年 齢 構 成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員のうち、 定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員のうち、 定年を延長して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注)・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、

及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。

・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{8}{8} = \boxed{100} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{0}{8} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C'）}}{\text{設置時の計画（A'）}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 基幹(専任)教員辞任等の理由

(3) - ① 基幹(専任)教員の就任辞退(未就任)の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	基幹（専任）教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし								
合 計（D）					後任補充状況の集計（E）					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）	③の合計数（c）		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(注)・認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての基幹(専任)教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。

・「就任辞退(未就任)」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。

就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ② 基幹(専任)教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。

・昨年度の報告後から今年度の報告時まで基幹(専任)教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退(未就任)の理由」に就任辞退の理由等及び()書きで報告年度を記入してください。

・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・基幹(専任)教員が担当する(している)場合は「①」

・基幹(専任)教員以外の教員(兼任兼担教員)が担当する(している)場合は「②」

・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 基幹(専任)教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	基幹（専任）教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合 計（F）					後任補充状況の集計（G）					
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）	③の合計数（c）		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(注)・一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての基幹(専任)教員について、記入してください。

(学年進行中に基幹教員の要件を満たさなくなったことにより、基幹教員でなくなった教員についても記入してください。)

・昨年度の報告後から今年度の報告時まで基幹(専任)教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。

・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・基幹(専任)教員が担当する(している)場合は「①」

・基幹(専任)教員以外の教員(兼任兼担教員)が担当する(している)場合は「②」

・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（Ｄ）＋（Ｆ）				後任補充状況の集計（Ｅ）＋（Ｇ）							
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{0}{8} = 0 \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和6年度報告書から、新たに辞任等した基幹(専任)教員等の状況

0 人

(注)・(3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した基幹(専任)教員数の合計数を記載してください。

・令和7年度開設の学科等の場合、(D)+(F)と同数を記載してください。

(3) -⑥ 定年により退職した基幹（専任）教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	基幹（専任）教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合 計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(注)・ 定年により退職した全ての基幹（専任）教員について、記入してください。

- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに基幹（専任）教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・基幹（専任）教員が担当する（している）場合は「①」
- ・基幹（専任）教員以外の教員（兼任兼担教員）が担当する（している）場合は「②」
- ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 基幹（専任）教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注)・ 上記（3）の基幹（専任）教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和5年)	理学部化学科の収容定員未充足の是正に努めること。	【認可】 遵守事項	収容定員充足率は令和4(2022)年度0.68、令和5(2023)年度0.62、令和6(2024)年度0.52となっている。 高校への聞き取り調査では「化学」選択者の減少という意見が多く、そのため、高校低学年より、化学への興味関心を引き出すために、「高校生のための化学実験教室」を本学で開催している。 また、企業・公的機関での研究職を目指し、大学院へ早期進学を目指す「大学院早期進学コース」も高校生へ訴求力があるため、フライヤーを作成し周知を図っているが、収容定員未充足の状況が続いている。(6)
			今年度も引き続き、「高校生のための化学実験教室」の開催を予定しており、化学への興味関心を引き出すことで受験に繋げていく。 また、タイムリーなDM発送や県内の高校訪問も昨年度以上に強化し、周知を図っていく。 同時に学科の学びの動画をHPにて紹介することで、研究力のある大学として社会にアピールしていく。(6)
			申請時、理学部化学科の収容定員充足率は令和4(2022)年度0.68であった。 高校への聞き取り調査では「化学」選択者の減少という意見が多く、そのため、高校低学年より、化学への興味関心を引き出すために、「高校生のための化学実験教室」を本学で開催している。 また、企業・公的機関での研究職を目指し、大学院へ早期進学を目指す「大学院早期進学コース」も高校生へ訴求力があるため、フライヤーを作成し周知を図っているが、収容定員充足率は令和5(2023)年度0.62、令和6(2024)年度0.52、令和7年(2025)年度0.43となっており、いまだ未充足の状況が続いている。(7)
			化学への興味関心を引き出すため、「高校生のための化学実験教室」を開催するとともに、新たに中学校への出張講義を行い、将来の志願者確保につなげていく。 また、タイムリーなDM発送や県内の高校訪問もこれまで以上に強化し、周知を図っていくとともに学科の学びの動画をHPにて紹介することで、研究力のある大学として社会にアピールしていく。 令和8(2026)年度に収容定員変更(入学定員減)を届出予定である。(7)

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
	理学部臨床生命科学学科の収容定員未充足の是正に努めること。	【認可】 遵守事項	収容定員充足率は令和4（2022）年度0.62、令和5（2023）年度0.64、令和6（2024）年度0.71となっている。 令和4（2022）年度より学部・学科を改組し、臨床検査技師の国家資格取得に特化した内容に変更を行い、入学定員を95名から50名に45名減じている。 学科単独の高校訪問だけではなく、生命系の他学科教員と高校訪問を実施することで、高校教員を通じて受験生に学科内容の周知を図り、収容定員充足は改善傾向にある。（6）
			令和7（2025）年度より学部・学科の改組を予定しており、理学部臨床生命科学学科と工学部生命医療工学科を1学科に統合し、生命科学部医療技術学科を設置する予定である（設置認可申請中）。 臨床検査技師、臨床工学技士と2種類の医療系国家資格が取得できる学科として、中四国の受験生を中心にDMを発送し、周知を図っていく。 県内の高校教員を本学に招き、学科概要説明や施設見学を実施し、本学の魅力を伝えていく。（6）
	教育学部中等教育学科の収容定員未充足の是正に努めること。	【認可】 遵守事項	臨床検査技師の国家資格を取得できるコースだけではなく、臨床工学技士の国家資格を取得できるコースを設け、幅広い受験層の獲得を目指すため、令和7（2025）年度より工学部生命医療工学科と統合し、新たに生命科学部に医療技術学科を設置した。 今後も臨床検査技師、臨床工学技士と2種類の医療系国家資格が取得できる学科として、中四国、九州・沖縄エリアの受験生を中心にDMを発送し、周知を図っていく。 また、県内の高校教員を本学に招き、学科概要説明や施設見学を実施し、本学の魅力を伝えていく。（7）
	教育学部中等教育学科の収容定員未充足の是正に努めること。	【認可】 遵守事項	収容定員充足率は令和4（2022）年度0.70、令和5（2023）年度0.62、令和6（2024）年度0.57となっている。 積極的な高校訪問や出張講義により、学科の特色を受験生に周知している。 さらに、WEB広告等により学科のアピールを行っているが、収容定員未充足の状況が続いている。（6）
			令和7（2025）年から入学定員を見直し、60名から50名に10名減じる。 県内及び近隣県の高校訪問を強化し、教員採用試験の合格者の多さやOB教員が多いなどの本学ならではの強みをアピールしていく。 また、教員不足が言われている中、近隣の自治体や高校にもアプローチし、高大及び官と連携して教員養成プログラムを実施できるような働きかけを行っていく。（6）
	教育学部中等教育学科の収容定員未充足の是正に努めること。	【認可】 遵守事項	申請時、教育学部中等教育学科の収容定員充足率は令和4（2022）年度0.70であった。 教育学部全体で積極的な高校訪問や出張講義により、学科の特色を受験生に周知している。 さらに、WEB広告等により学科のアピールを行っているが、収容定員充足率は令和5（2023）年度0.62、令和6（2024）年度0.57、令和7（2025）年度0.63となっており、いまだ未充足の状態が続いている。 令和6（2024）年度の広報戦略及び入学定員減も重なり、収容定員充足率は改善傾向にある。（7）
			県内及び近隣県の高校訪問を強化し、教員採用試験の合格者の多さやOB教員が多いなどの本学ならではの強みをアピールしていく。 また、教員不足が言われている中、近隣の自治体や高校にもアプローチし、高大及び官と連携して教員養成プログラムを実施できるような働きかけを行っていく。（7）

区 分	附 帯 事 項 等		履 行 状 況		今後の の実施計画
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和6年度)	教育内容の充実等を通じ、収容定員未充足の改善に努めること。 (生命科学部生物科学科)	【A C】 指摘事項 (改善)	報告時、収容定員充足率は令和6(2024)年度0.70であった。 会場説明会などに本学の生命科学部教員を派遣することにより、受験生へのアプローチで本学教員と接する機会を増やしている。 令和7(2025)年度0.72となっており、収容定員充足率は改善傾向にある。(7)	履行中	会場説明会で学科教員を派遣する機会を増やした影響で、学科に興味を持つ生徒が増えたと考える。 一定の効果があったと考え、今年度においても継続していく。(7)

(注)・「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおり記載してください。

【令和6年度報告書から記載内容に変更がある場合】

令和6年度報告書の記載内容を転記し文末に「(6)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(7)」と記載してください。

【令和6年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和6年度報告書の記載内容を転記し文末に「(6) (7)」と記載してください。

【令和7年度から新たに調査対象となった学科等又は令和6年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(7)」と記載してください。

- ・「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。
その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
- ・「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<獣医学研究科 獣医学専攻 博士課程>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学では教員の教育能力を高める組織的・実践的取り組みとして平成12年度にFD委員会を設け、授業の改善を目的に教育システムの点検、授業内容(範囲及び水準)・方法の妥当性の検証等に全学的に取り組んできた。平成22年度には教育開発支援機構(平成28年度から教育支援機構、平成30年度から教育推進機構)を設置して、FD推進室を中心に取り組みの拡充を図り、学生による授業評価アンケート、教員間の授業参観、これらの有効性・妥当性の検証と啓発・周知を図るための講演会等の研修、各種報告書の作成と公開に取り組んできた。

全学のFDを推進する業務を担ってきたFD推進室は、平成28年度の全学的な教育研究組織の改編に伴い、教育支援機構(平成30年度から教育推進機構)教育開発センターへと発展的に改組した。さらに、平成30年度からは、各学科・センターの教育内容、教育方法の改善に係る企画立案及び成果検証を推進する上で中核的な役割を果たす教員を「教育ディベロッパー」に任命する制度を設けた。また、令和2年度から教育に関する重要事項を審議する場として、学部代表も構成員に加えた「教育推進機構会議」を設け、教育推進機構の各センターの教育改革を全学的に機能させる体制を整えた。

教育推進機構教育開発センターが立案したFDの実施計画は、「教育推進機構会議」における審議を経たのち、「教学委員会」において学部(研究科)教員に情報を提供している。「教育推進機構会議」では、それ以外の教学に関する重要事項についても審議している。各学部においては、学部教授会の前後に「学部懇話会」の時間を設けFD活動に取り組んでいる。

また、教育研究活動の適切かつ効果的な運営を図り、教職員として必要な知識や技能を修得させ、能力及び資質を向上させるための研修としてSDを計画的に実施している。SDに関しては「SD推進委員会」を設け、SDの実施方針、実施計画等を審議している。

b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)

「教育推進機構会議」は、(1)教育推進機構長、(2)教育推進機構副機構長 (3)学部代表(兼 研究科代表)各1名、(4)教育開発センター長、(5)基盤教育センター長、(6)教職支援センター長、(7)学芸員教育センター長、(8)IRセンター長、(9)教学支援部長、(10)教学・学生支援部長(今治キャンパス)(11) その他教育推進機構長が必要と認めた者を構成員とし、毎月1回開催する。

「教学委員会」は、大学全体の方針を踏まえ学部、学科、機構等との教学に関する情報共有や意見調整を行うことを目的とし、毎月1回開催する。(1)副学長、(2)学部長、(3)学科長・コース長、(4)副機構長、(5)教育開発センター長、(6)IRセンター長等を構成員とする。

「SD推進委員会」は、(1)学長、(2)副学長、(3)事務局長、(4)事務局次長、(5)庶務部長、(6)経営改革本部人事チーム部長を委員として、SDを計画的、組織的に実施し、実施内容について点検・評価するため年に数回開催する。

c 委員会の審議事項等

FD活動については、教育推進機構内の教育開発センターが研修会・講習会などを企画しており、重要事項については教育推進機構会議の審議を経て業務を推進している。学部、学科等に対しては、教学委員会を通じて情報の周知及び共有に努めている。

SD活動については、SD推進委員会を設けて庶務部を中心に実施計画を作成し、事務職員の部課長会議等でSDの実施計画や結果等の情報を周知している。

② 実施状況

a 実施内容

- (1) カリキュラムアセスメント（学科・専攻の評価に対する他学科・他専攻評価によるカリキュラム改善）
- (2) 卒業生・修了生アンケート、卒業生・修了生インタビュー
- (3) 全学FD講演会、教育ディベロッパー研修会、フォローアップFD及び学部懇話会並びに職員研修（SD）の実施。
- (4) 学生による授業アンケート

b 実施方法

- (1) カリキュラムアセスメントは、学部・学科・専攻の卒業・修了生がどの程度DPを修得したのか、カリキュラム改善を目的として、自己（自学科・専攻）評価、他者（他学科・専攻）評価を行うものであり、学部学科・研究科専攻ごとにアセスメントポリシーを設けている。
- (2) 卒業生・修了生アンケートは教育改善や学生支援の充実を目的とし、全学の卒業生・修了生対象に実施する。卒業生・修了生インタビューは直接、学生にインタビューを行い、教育改善に活用する。
- (3) FD講演会、SDは講師による講演と質疑応答を行い、各教員が授業改善・業務改善の取り組みに生かす。講演会にはワークショップをセットにする場合もある。全学対象の講演会の他、各学部・研究科・機構単位に実施する懇話会にFD的な内容を設ける場合もある。
- (4) 授業改善のための授業アンケートに関しては③に後述する。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

令和6年度の実施状況は下記の通りである。令和7年度もFD・SD講演会を実施する計画である。

FD関係

No	実施日	研修名	参加人数
1	2024/4/26（金）	全学FD研修会（情報セキュリティ基礎講習）	311
2	2024/5/29（水）	第1回教育ディベロッパー研修会	33
3	2024/6/5（水）	全学FD研修会（CAC）	26
4	2024/6/11（火）	2024年度入試FD研修会	188
5	2024/6/14（金）	フォローアップFD研修会	36
6	2024/6/21（金）	獣医学部FD研修会	26
7	2024/6/26（水）	全学FD研修会（2024年度入学前教育結果報告会）	87
8	2024/7/17（水）	全学FD研修会（情報セキュリティ基礎講習）	416
9	2024/7/31（水）	第2回教育ディベロッパー研修会	34
10	2024/9/5（木）	FD研修（こころの健康講座）	215
11	2024/9/12（木）	第1回安全保障輸出管理に関するFD講演会	255
12	2024/9/14（土）	英語教員FD会	4
13	2024/9/25（水）	第3回教育ディベロッパー研修会	33
14	2024/10/23（水）	FD講演会（URA島田氏講演会）	42
15	2024/11/2（土）	FD研修（教職シンポジウム2024）	10
16	2024/11/6（水）	第2回安全保障輸出管理に関するFD講演会	300
17	2024/11/6（水）	障がい学生支援にかかるFD研修会	112
18	2024/11/20（水）	全学FD研修会（情報セキュリティ基礎講習）	439
19	2024/11/27（水）	第4回教育ディベロッパー研修会	32
20	2024/12/4（水）	第3回安全保障輸出管理に関するFD講演会	336
21	2024/12/4（水）	全学FD研修会（2025年度シラバス作成関連）	145
22	2025/2/26（水）	全学FD研修会（単位の実質化）	117
23	2025/3/5（水）	第4回安全保障輸出管理に関するFDD講演会	183
24	2025/3/7（金）	FD研修（ソーシャルメディア利用について）	315
25	2025/3/12（水）	全学FD研修会（FD活動報告会ほか）	122
26	2025/3/13（木）	全学FD研修会（PROG解説会）	83
27	2025/3/14（金）	全学FD研修会（CAC）	36

SD関係

No	実施日	研修名	参加人数
1	2024/4/1（月）	新採用者研修	37
2	2024/5/29（水）	ハラスメント防止研修	546
3	2024/6/11（火）	入試広報セミナー	188
4	2024/7/17（水）	全学FD研修会（情報セキュリティ基礎講習）	416
5	2024/9/5（木）	メンタルヘルス研修	215
6	2024/9/12（木）	第1回安全保障輸出管理に関するFD・SD講演会	255
7	2024/11/2（土）	教職シンポジウム2024	10
8	2024/11/6（水）	第2回安全保障輸出管理に関するFD・SD講演会	300
9	2024/11/20（水）	全学SD研修会（情報セキュリティ基礎講習）	439
10	2024/11/21（木）	応急手当普及員による普通救命講習会	47
11	2024/11/22（金）	全学SD研修会 防火・防災避難訓練概要（自衛消防隊の役割について）	206
12	2024/12/4（水）	第3回安全保障輸出管理に関するFD・SD講演会	336
13	2025/3/5（水）	第4回安全保障輸出管理に関するFD・SD講演会	183
14	2025/3/7（金）	全学SD研修会（ソーシャルメディア利用について）	315

獣医学専攻博士課程では、教員の教育力の維持・向上を図るための研究科独自のFD活動として、「フロンティア獣医学総合講義」における相互授業参観を実施している。博士課程専任教員に対しては、年間4回以上の授業参観を推奨し、授業後には内容や指導法等に関する意見交換を行うことで、教育方法の改善と教員間の相互啓発を促している。令和6年度においては、博士課程専任教員による当該FD活動への平均参加回数が5.3回となっており、所期の目的に沿った形でFD活動が着実に実施されているものと判断される。今後も引き続き本取り組みを継続・発展させ、教育の質の一層の向上に努める。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

本学はアセスメントポリシーを定めており、卒業・修了予定者を対象にカリキュラムコンサルティング（学生インタビュー）やアンケートを実施し、その結果に基づいて各学科がカリキュラムについて自己評価を行い、その自己評価結果に対して他学科による他者評価を受ける取り組み（カリキュラム・アセスメント）を教育開発センターが中心となって実施している。教育開発センターでは、カリキュラム・アセスメントの結果を学科・専攻へフィードバックすることにより、授業改善等に取り組んでいる。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

すべての授業科目に対してLMSによる授業アンケートを実施している。質問項目は、学生自身の学習の取り組み、授業内容の水準、教員の熱意、満足度などであり、自由記述欄も設けている。

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業担当教員は授業アンケートの集計結果をWeb上で確認し、集計内容や自由記述欄への記述に対するコメントとして所見をWebシラバス上に登録することになっている。所見は学生・院生・教員が自由に閲覧できるよう、Webシラバス上に公開している。学生の意見に対して教員が応えるという双方向性を持たせることにより、継続的な授業改善が行われるようにしている。

なお、全学の授業評価結果（授業アンケート経年比較）は「授業アンケート調査結果報告」としてホームページに掲載し、情報公開している。

(注)・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（３）教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

獣医学専攻博士課程は、動物と人間社会の関係を多角的に捉える俯瞰的な視野を持ち、協調性と創造性を備えた獣医学研究者の養成を目的として設置された。設置初年目にあたる令和6年度は、当該趣旨に基づき、計画的な教育課程の実施とともに、入学者の拡大、教育支援体制の強化、教員間の連携促進、ならびに制度整備の進展により、本専攻の基盤形成と発展に向けた着実な一歩を刻む年となった。

1. 教育・研究環境の整備

現状：獣医学研究科博士課程では、基礎・社会・臨床研究の各分野において、多角的視点から動物と人間社会の関係を理解するためのカリキュラムを整備し、計画どおり「フロンティア獣医学総合講義」および各専門科目を開講した。また、設置二年目となる本年度は、5名の多様な研究志向を持つ学生を受け入れ、教育・研究の両面において設置趣旨に沿った運営がなされた。さらに、教育改善ワーキンググループを2回開催し、論文博士制度の運用に関する審議や学生の研究活動報告体制の整備を進め、論文博士の審査手順および審査基準に関する規程を整備した。

改善点：学生からのフィードバックを踏まえ、学生室の機能整備やTA活動体制の見直しを実施し、研究活動に対する表彰制度も新設するなど、教育環境の質的向上を図った。今後も教育改善ワーキンググループを継続的に開催し、カリキュラムの見直しとともに、学生ニーズに応じた柔軟な教育環境の整備を進める。

2. 入試広報活動の成果と課題

現状：令和7年度は設置二年目にあたり、入学者数は定員3名に対し5名と、定員を上回る結果となった。進学者の内訳は、本学獣医学科からの進学者が3名、理工学研究科修士生が2名であり、臨床研究志向者と基礎・トランスレーショナルリサーチ志向者が含まれていた。これらは、初年度に実施した広報活動の効果が徐々に現れたものであり、博士課程の認知度が学内で着実に高まってきたことを示す成果と考えられる。

改善点：今年度は、学内向け進学説明会（春に2回）、入試説明会（春に1回）、オープンキャンパスにおける研究科紹介、パンフレット・入試要項・ホームページの改訂等を通じて、広報活動を積極的に展開した。今後は、大学院進学に対する動機形成をさらに早期化・多様化し、他大学や社会人も含めた幅広い対象への広報戦略を強化することで、継続的な定員確保を目指す。また、社会人入学希望者に対する支援体制の一環として、獣医学部附属教育病院でのアルバイト勤務制度などを整備し、教育費負担に関する懸念の軽減に努めることで、社会人進学の魅力を高める取り組みを進めていく。

3. 教員体制の充実

現状：博士課程専任教員数に変動はなかったが、新研究科としての教員間連携を重視し、研究科委員会の開催を通じて情報共有と体制整備を行った。また、FD活動の一環として、相互授業参観を計画どおり年4回以上実施し、全教員が参加するなど、教育の質向上に向けた取り組みが定着しつつある。

改善点：現時点においても、既存の教員体制により、在籍学生に対する必要な教育・研究指導は十分に提供できている。しかしながら、今年度入学者を合わせるとウイルス学分野を志向する学生とおよび獣医保健看護学出身者が4名に達していることから、専門的かつ持続的な研究支援の観点からも、両分野を専門とする教員の配置が望まれる。現在、本研究科は文部科学省による設置認可後のアフターケア期間（AC）にあり、教員の追加には設置審の審査を要するが、制度上の手続きを経て、必要に応じた教員の補充を行うことで、教育研究体制のさらなる充実が図られ、設置趣旨に沿う理想的な指導体制に一步近づくものと期待される。併せて、既存教員間の連携体制も引き続き強化し、多様な学生ニーズに柔軟に対応できる体制づくりを進めていく。

4. カリキュラムとディプロマポリシーの周知

現状：新カリキュラム、ディプロマポリシー、博士学位取得までのスケジュールについては、新入生オリエンテーションを通じて明確に周知された。また、指導教員（主）に加えて副指導教員2名を配置し、専攻所属学生全員が参加するゼミナールを定期的の実施することで、計画的な研究指導と学修支援がなされている。

改善点：今後は、周知活動の方法を多様化し、ガイド資料やポータルサイト等の活用も視野に入れて、学生が常に指針を参照できる体制を整える。また、ゼミナールや研究報告の場において、学習目標と学位取得プロセスの定着を支援し、修了までの道筋を可視化していく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和7年7月1日 公表

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定（令和7年7月1日を予定）

③ 認証評価を受ける計画

令和2年度に評価機関（大学基準協会）の認証評価を受け、大学基準に適合していると認定されている。

【認定期間：2021（令和3）年4月1日から2028（令和10）年3月31日】

（注）・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和7年度）

a 公表予定の有無 [☒ 有 ・ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 ☒ 調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 ☒ ウェブサイトへの掲載 その他（ ）]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。